

河俣阿蘇神社天井画復元

熊本県立八代工業高等学校 インテリア科3年

発表者 糸永 智美・今村 未侑・江崎 亜美・尾村 知美
 杉本 加奈・園田 恵美・鶴田 静・広本 唯佳
 福岡 里予・宮山 奈摘子・米村 綾美
 指導者 田中 敬三・永元 亮太

1. はじめに

河俣阿蘇神社は八代市東陽町河俣に位置する。2011年に建立900年を迎える伝統ある神社で、氏子さんをはじめとする地域住民の方々や行政が一体となって大切に守っている。この神社の



写真1 河俣阿蘇神社外観

天井画は、描かれた当時は美しく参拝者を魅了していたが、拝殿が吹きさらしということもあり、現在はひどく傷んでいたり失われたりした物もある。

2. 本校インテリア科における天井画制作について

本校インテリア科において天井画制作は過去に3件行っている。私たちは、天井画の制作が初めてであったため、先輩方の作品の見学を通して、天井画がどのようなものであるかを学んだ。過去の作品では、板目方向を市松模様にすることや、絵の向きを本殿に合わせるといった工夫がされていた。見た目の美しさを出すために、今回の制作でも板目は市松模様に配置することとした。

3. 神社の現状

次ページの図1は河俣阿蘇神社拝殿の天井伏



写真2 天井画を外した拝殿

神社名	取組年度	枚数	絵の向き	板目方向
豊葦原神社 (通称：遙拝神社)	平成14年度	192	全て本殿向き	交互
小田浦阿蘇神社	平成19年度	99	全て本殿向き	塗装のため判断できない
大名持命神社 (通称：敷川内神社)	平成20年度	95	全て本殿向き	交互
河俣阿蘇神社	平成22年度	120	不規則	不規則

表1 過去の取組と河俣阿蘇神社の現状

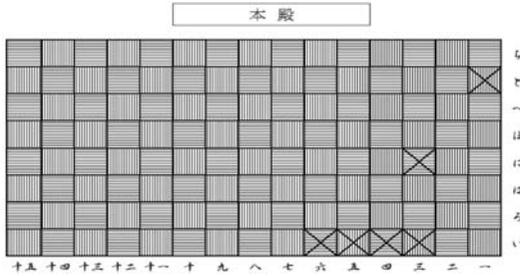


図1 天井伏図

図で、×印部分は天井画が失われていることを示している。他にも、損傷が激しくデザインや色に関して情報が不足している板が多くあった。

4. 本年度の取組

年度当初に現地調査を行った。実際にどのような神社で、どのような状況なのかを知るためである。調査当日は氏子さんや行政の方から「河俣阿蘇神社」についてお話を聞くことができ、改めて地域から大切にされている神社であることがわかった。

現存の天井画を外し本校に運んでいただくまでの2週間程度は、着彩の練習時間とした。実際の天井画制作と同じ工程で、「元図のトレース



写真3 現地調査



材料	杉
寸法	43cm角
枚数	120枚(8行×15列)
板目の方向	現状は不規則に並んでいる。今回の制作では、市松模様になるように配置する。

表2 制作材料等について

ス ⇒ トレースダウン ⇒ ジェツツで下塗り ⇒ アクリル絵の具で仕上げ」という手順で、動植物の絵の練習を行った。

拝殿から外された天井画が本校の作業場に搬入されてからは、各担当者に振り分けて、拝殿に対する絵の向きと番付の確認をした。本校が取り組んだ過去の天井画制作では、絵の向きは全て本殿向きとなっていたが、河俣阿蘇神社ではそのような規則性はなくランダムに配置され



写真4 天井画の現状(割れている)



写真5 天井画の現状(色が落ちている)

ていた。また、板目についても同様に不規則になっていた。より忠実に再現するには同じようにすべきかもしれなかったが、板目についてだけ規則的に並べるようにし、本殿に対する絵の向きは現状と同じとした。木材の乾燥に伴う反りを考えて、木表側に絵を描くこととした。

拝殿が吹きさらしであったため予想以上に損傷がひどく、描かれている内容が不明な天井画については、どのような絵にするかを本校図書館にて調査を行った。全く情報のない天井画については、熊本県や東陽町に生息していると考えられるものを選び、バランスの良い大きさに描いた。

作業を進めていく中で、板の周辺に文字が書いてある天井画を数枚発見した。解読を試みたものの、何を意味するかを理解することは困難であった。天井画の劣化が激しく、どのような植物かわからない板が多くあるため、この文字がヒントになることは予想できた。また描かれた当時の様子（作者や天井画制作の理由等）が書いてあるようではあったが、正確な内容はつかめなかった。

〈四辺に書かれた文字〉

（上側：長寿を祝しての和歌）

「黒木、加来、長寿をしゆくしてともに一萬二千歳、萬代もかわらぬ色の福寿草、若竹や、よ代に千代こむ今朝のはる、常盤木の名を兼たるや松は草」

（左側：この天井画の制作者について）

「雪舟一流画工甘谷叙法眼仙流良明孫龍峯山麓甘谷加来仙瓢良康行年54歳画之」

（右側：天井画の制作日や枚数について）

「和漢共二元日ニハ花開也、安政六末十一月三日川俣邑庄屋黒木新平行年五十四歳寄進惣数百二十枚、邑方諸役人中並小前中ヨリ」

（下側：この板に描かれている植物について）

「元日草本名ハ福寿草花一重八重有り、花深黄又浅黄又白もあり、朝ニ花花咲、タニ子ブル



写真6 四辺に文字の書いてある天井画



写真7 文字部分の拡大写真

也、翌朝開目出度花也、漢名は報春草うぐいすと同じニ依て報春草と云也」

〈八代市文化課の山崎摂さん〉

八代市文化課の山崎摂さんに天井画に記された文字の解読を依頼し、解説と講話をしていただいた。この天井画は、雪舟流を学んだ細川藩御用絵師「甘谷叙法眼仙流良明」の孫弟子にあたる「甘谷加来仙瓢良康」によって描かれたものであり、東陽町に住んでいた黒木氏と加来氏の長寿を祝い、安政6年に120枚制作されたということがわかった。

歴史的価値が高く、八代市にとって大発見であるとのことであった。私たちも、改めてこの天井画の価値を認識し、このような制作の機会に出会えたことを嬉しく思った。また、責任のある作業であることも痛感した。

天井画制作を行っていく中で、「天井画は華やかに仕上げるべきか？」という疑問点があっ

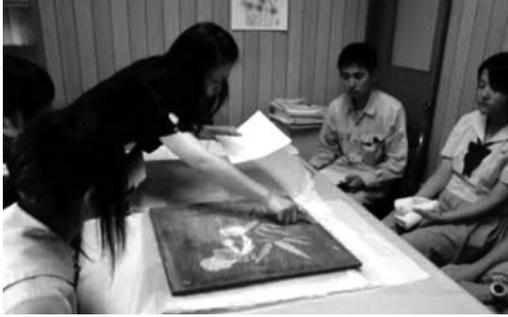


写真8 山崎さんの解説と講話

たため、山崎さんに質問をした。それに対する回答は、「天井画は神様にささげる物なので華やかに仕上げているが、描かれている物の本来の色で仕上げていることが多い。昔からある色を使い、今できる最高の色使いをすること。雪舟流の作品を良く見て仕上げ方法を学ぶこと。」とのことであった。そこで、お借りした雪舟や

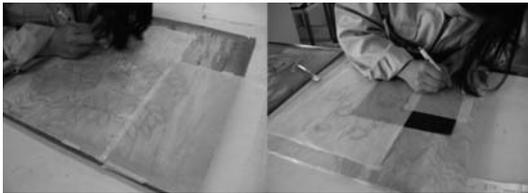


写真9 トレース、トレースダウン

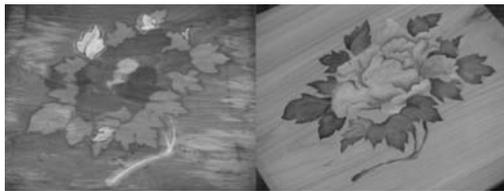


写真10 現存する天井画(左)と制作した天井画(右)

矢野派に関する作品集を見たり、過去の先輩の作品などを見たりして、少しでも制作された当時に近づけるように取り組んだ。

天井画制作は、先ほど述べたように「トレース、トレースダウン、下塗り、着彩」という手順で行った。河俣阿蘇神社は拝殿が吹きさらしになっているため、天井画を保護する必要がある。そのため、着彩終了後には天井画板全面に保護ニス塗布して完成となる。

5. 譲渡式

平成23年2月10日(木)に、八代ハーモニーホールで行われた「八代工業高校インテリア科作品展」にて譲渡式を行い、完成した120枚の天井画を地元の方にお渡しした。

6. まとめ(感想)

初めての作業ばかりで苦労することが多かったが、地域の方々に喜んでいただけるように丁寧な作業を行った。天井画制作という後世に残る貴重なものづくりを体験でき、うれしく思う。同時に、責任のある作業であり、プレッシャーを感じることも多かった。建立900年という伝統ある神社の天井画制作という機会に出会えたことに感謝している。



写真11 現在の河俣阿蘇神社の拝殿

工業教育資料 通巻第340号

(11月号) 定価 210円 (本体 200円)

2011年11月5日 印刷

2011年11月10日 発行

印刷所 株式会社インフォレスト

© 編集発行 実教出版株式会社

代表者 戸塚雄武

〒102 東京都千代田区五番町5番地

-8377 電話 03-3238-7777

<http://www.jikkyo.co.jp/>